



NPO 法人

ひろしま人と樹の会

会報 No. 287

□理 事 長 石丸 榮満

□事 務 局 〒733 - 0852 広島市西区鈴が峰町 16 - 20 (中元明弘)

Tel & fax 082 - 277 - 9490 E-mail: hirosimahitotokinokai@yahoo.co.jp

□年 会 費 個人 2,000 円 団体 5,000 円 郵便振替 01360-4-29388 「ひろしま人と樹の会」

□編集責任者 古川ちひろ

本号の内容

年頭のご挨拶

<セミナーのご案内>

1. 番外編 現場セミナー
第 26 回桜守りプロジェクト
土師ダム湖畔のさくら並木の手入れ
(下準備 2/26 : 火、本番 3/3 : 日)
安芸高田市八千代町土師

<セミナー等の報告>

1. 番外編 現場セミナー桜守プロジェクト
土師ダム湖畔の桜並木の手入れ
(事前準備 11/29 : 木、本番 12/2 : 日)
安芸高田市八千代町土師
2. 第 244 回現場セミナー 炭焼き体験
(炭焼き 11/30 : 金~12/8 : 土、
炭出し 12/22 : 土)
安芸高田市八千代町土師
3. 第 245 回現場セミナー
八千代町里山保全祭
(12/23 : 日)
安芸高田市八千代町土師

<事務局からのお知らせ>

年頭のごあいさつ

理事長 石丸 榮満

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

毎月の会報誌でもご紹介させていただいておりますように、昨年も、会員の皆様のご協力で各種行事を実施し、関係者から多くの感謝のお言葉を頂いております。

これも、会員皆様のご協力によるものと、ありがとうございます。

ご承知の通り、ボランティア精神は、「利己」でなく「利他」の精神です。この精神で他人に尽くせば、心清らかになります。

もっと多くの方々が、心清らかになりますよう、会員の増加と行事への参加をお待ちしております。

皆様の益々のご活躍とご繁栄をお祈り申し上げます。

◆セミナーのご案内◆

1. 番外編 現場セミナー 第26回桜守りプロジェクト
土師ダム湖畔のさくら並木の手入れ
(下準備2/26:火、本番3/3:日)
安芸高田市八千代町土師

土師ダム湖畔には、6,000本のさくらが植栽され「全国さくら100選」に選ばれ、県民に親しまれています。

この名物のさくらの木は、高齢化が進み、天狗巣病などにかかり生育不良も多く、場所によれば著しく景観を損ねて緊急に手入れが必要になっています。

この度も公園を管理されている国土交通省の土師ダム水源地域ビジョン「桜守プロジェクトチーム」から病気の桜を元気にする手伝いを要請されました。

ついては、お手伝いに次の通り参画しますのでご協力をお願いいたします。

どなたでも参加できます。体力に見合った作業を用意しますのでお子様や友人、知人お誘いあわせで参加をお願いいたします。

1 日時

①下準備 2月26日(火) 9時~15時

(チェーンソーを扱う方募集:10人)

②本番 3月3日(日) 9時~15時

(桜の枝払い、丸太・枝の集積・運搬、施肥、なめこの植菌など)

2 場所

安芸高田市八千代町土師「のどごえ公園」周辺

集合場所:土師ダム湖畔「はじまる館」

8時30分受付

3 参加募集

100人(予定)

4 作業内容

①下準備 病気の桜木伐倒

(チェーンソー経験者が対象)

②本番 桜の枝払い、丸太・枝の集積・運搬、

施肥、なめこの植菌など

(どなたでも参加できます。)

5 参加料

無料(食事付き)

6 持参品

作業のできる服装、タオル、ヘルメット、

ノコ、山鎌など

7 主催

桜守りプロジェクト

(協力:NP0法人ひろしま人と樹の会)

8 申込先

事務局 中元まで2月22日必着

参加申込書 TEL・FAX 082-277-9490

名前 (年齢)	住所	連絡先 (TEL)	参加日に○印を付ける
			① 2/26 ②3/3
			① 2/26 ②3/3
			① 2/26 ②3/3

【土師ダム湖畔位置図】



【出典】Yahoo!地図

◆セミナーのご報告◆

1. 番外編 現場セミナー桜守プロジェクト報告 土師ダム湖畔の桜並木の手入れ (事前準備 11/29: 木、本番 12/2: 日) 安芸高田市八千代町土師

12月2日(日)第25回桜守プロジェクトの参加者は110名、当会から16名が参加した。9時に土師ダム湖畔の「はじまる館」の駐車場に集合し、受付を済ませると班分けが行われた。今回は桜の現況を把握する実地調査班(班長正本さん)を新たに設けた、そのほかは従来通り、施肥班、草刈り班、運搬班、チェーンソー班、集積班、植菌班である。当会の畝本さんは植菌

班の班長に、櫻井さんはチェーンソー班の班長に指名された。

開会式では、永きにわたり(参加回数15回)桜の維持保護活動に尽力したとして今回5名の方が感謝状を受賞した。当会からは、森川副会長、櫻井事務局長、中元理事が受賞した。おめでとうございます。長年のボランティアご苦労様です。桜もさぞ喜んでいることでしょう。



なめこの植菌

山本優会長の挨拶、技術顧問の正本大さんの作業上の注意があった後、それぞれの班に分かれて作業を開始した。チェーンソー班は 10 名くらいである。作業内容は 11 月 29 日にあらかじめ伐倒したテングス病にかかった桜を植菌用に玉切る。その後、桜以外の木も枝払いや運びやすい長さに玉切り、午前中には処理し終えた。



施肥班



伐倒班

昼食はいつも通り、地元の皆さんの心のこもった、おにぎり、トン汁、ヤマメの塩焼きをおいしくいただいた。いつもありがとうございます。昼食時間を利用して恒例の桜についての講義を正本大さんにしてもらった。桜の手入れをするに当たり大変参考になるお話しであった。

午後からも引き続き作業を行なった。チェーンソー班は午前中に作業を終えたのでほかの班を手伝った。15 時には無事作業を終えた。

閉会式の後、ナメコの櫓木を希望者に配って散会となった。

事前準備 11/29 (木)

本番に備えて、危険を回避し安全に作業ができるよう準備を 13 名で行なった。作業は桜守プロジェクト顧問の正本さんから天狗巣病の桜や桜を被圧している高木のイチョウ木にあらかじめ赤いテープを巻いているのでそれを伐倒してもらいたいと説明を受けてから A・B の 2 班に分かれて行なった。

A 班の現場はサイクリングターミナル寄りの斜面でこれまで手入れがされていないところであり蔓が繁茂し木と木に巻き付いており伐倒に苦労した。1 本 1 本蔓がらみを確認しながら、時にはロープで引っ張り慎重に作業した。



A 班

B 班は天狗巣病の桜を中心に伐倒した。サイクリングロードに接近しているため施設を傷めないよう木に登り枝を切り落としてから本体にロープを掛け慎重に伐倒した。

15 時には予定の量を伐採し、全員けがもなく本番の準備を終えた。(報告者：中元明弘)



B 班



サクラの伐倒



イチョウの伐倒

2. 第 244 回現場セミナー 炭焼き体験 (炭焼き 11/30 : 金 ~ 12/8 : 土、炭出し 12/22 : 土) 安芸高田市八千代町土師

11 月 30 日 (金) : 1 日目

(材料調達、運搬、玉切り・薪割り)

【参加者 会員 7 人 (畝本、櫻井、沖田、圓光、太田、小石、三上) 会員外 4 人 (櫻井 (伸) 沖田、国際アーチェリーランド関係者 2 人) 合計 11 人】

1 年ぶりの炭焼き。今年は 9 月から 10 月にかけて北広島町土橋の YMCA キャンプ場を整備して出た、原木材料 (コナラ、ミズナラ) を使い炭焼きを行なった。(10 日間延べ 62 名)

午前中は原木材料を運ぶ運搬班と炭小屋の周りを清掃する班に分けた。運搬班は片道 55km 離れた北広島町土橋からユニック付き 4t トラックで運搬した。積み込みは 8 名で、会員以外の 4 名の方々にも応援をいただき約 90 分でトラックに積み込んだ。ほぼ積み終わった時に、原木を吊り上げていたワイヤーが切断し、トラックの上に落下する事故が発生、幸いケガ人はなく不幸中の幸いでした。



一方、清掃班は炭小屋の周りの草刈りや炭小屋の中を整頓し炭焼き準備を整えた。

10 時には「木の駅八千代町」の団体に貸し出していた薪割り機が届いた。

昼食は、2 班が合流し、三上さんが作った豚汁をいただいた。

午後からは、窯に入れる炭材の準備を行なう。原木を長さ 98cm に玉切り、太い原木は薪割り機で腕の大きさ程度に割って立込み材を揃えた。

12 月 1 日 (土) : 2 日目

(薪割り、窯への立て込み)

【参加者 会員 7 人 (櫻井、畝本、佐々木、沖田、三上、中元、新本)】

炭焼き専門家の新本さんに窯の状態を確認してもらい焼き方の技術的なアドバイスを受けてから立て込みを行なった。

午前中は、全員で薪割り。前日搬入したコナラ、ミズナラの原木が径 45 cm と大きなものがあり薪割り機でも割るのに悪戦苦闘。何とか炭木の大きさ程度に揃えた。



午後からは窯への立て込み、昨年のお原木と今年のお原木を一緒に窯に立て込んだ。夕方には窯の 2/3 程度まで詰めた。昼食には、三上さんが作った豚汁を頂きました。

12 月 2 日（日）：3 日目

（午前：桜守プロジェクトのイベントに参加。

午後：薪割り、窯立込、窯の薪入れ口密閉）

【参加者 会員 7 人（櫻井、神川、武内、武内、中元、佐々木、畝本） 会員以外 6 名見学 合計 13 人】

立て込みを午後から始めて 15 時頃に完了。



続いて薪入れ口を耐火煉瓦と粘土、灰で密閉。併せて、焚口燃材（薪）の調達。

他のイベント「桜守プロジェクト」に参加者された方々の内、炭焼きに興味はある方 6 名が作業を見学された。

12 月 3 日（月）：4 日目

（火入れ、火の管理開始）

【参加者 会員 4 人（櫻井、畝本、小石、宗綱）】

焚口の準備、煙突の取り付け、木酢液の採取準備を終えて 11 時 30 分火入れする。

併せて、焚口燃材（薪）の調達。1 日目は窯を温める程度の火の管理とした。

焚口に焚き用の燃料を一杯に詰め焚口を閉鎖 煙筒は 2 / 3 絞る。16 時 30 分煙筒の温度 71.1℃ 本日終了

12 月 4 日（火）：5 日目

（火の管理）

【参加者：会員 3 人：小石、圓光、宗綱】

8 時 20 分 焚口の閉鎖を解除（温度 79℃）

本格的に焚口の燃やし開始。火の管理は炭の質の良し悪しを決定する一番大切な作業。これ

まで数 10 回の体験を記録した体験記録ノート

（3 冊）を参考に煙の色や温度計で温度を確認し火の管理を行なう。

**12 月 5 日（水）：6 日目**

（火の管理）

【参加者 会員 2 人（小石、畝本） 会員外 2 人（山本、西川） 合計 4 人】

早朝、地元西川さん、山本さんに焚口一杯に薪を入れてもらう。その後継続して焚き続ける。夜は煙突を 1 / 3 に絞り、焚口に燃材を一杯に詰め、空気取り入れ口（扉）を閉めて帰る。



窯の温度は 68.6℃から 87.8℃

12 月 6 日（木）：7 日目

（徹夜で火の管理）

【参加者：会員 2 人：櫻井、宗綱合計 2 人】

早朝、71.4℃に温度が下がっている。煙筒を全開追い焚きする。温度が 100℃を超え窯の木に火が点いたので焚口扉を閉め、煙筒を 1 / 2 に絞る。後は焚口と煙筒の調整で管理する。今日は、櫻井は車で仮眠し徹夜で火の調整管理。

温度は 71.4℃から 188.2℃

12 月 7 日（金）：8 日目

（火の管理）

【参加者 会員 3 人（櫻井、畝本、宗綱）会員外 1 人（梅原）合計 4 人】

煙突の煙の色や温度計の温度を見計らって、煙筒を 1 / 3 に絞り、焚口扉を閉め帰宅する。温度は 192.5℃から 240℃

12 月 8 日（土）：9 日目

（火の管理終了）

【参加者 会員 2 人（櫻井、畝本）合計 2 人】

火の管理は、煙突の温度が 270℃に到達した 7 時 40 分から精錬を開始し、温度 377.2℃で煙の色が半透明になった、13 時 20 分に焚口を密閉し精錬を終えた。しばらくは煙突を開放するが 14 時 30 分には煙突を密閉。火の管理を終了した。どんな炭になっているか楽しみ。

12 月 22 日（土）

（窯から炭出し）

【参加者 会員 11 人（石丸、櫻井、畝本、宗綱、中元、沖田、圓光、渡利、武内（母）、武内（泰）三上）会員外 1 人（久保田）合計 12 人】

師走の恒例の炭出しには、時々小雨が降る中 12 名が参加した。

炭焼き体験（11/30～12/8）で焼き上げた貴重な炭。小雨のため炭小屋のスペースに運び出し、炭を A 級、B 級、粉炭みに分類し、米袋に 8 kg 詰め数量を計測した。総重量 262.5 kg とれた。「勘と経験」で行う炭焼き、素人の火の管理としては上々の出来栄であった。

炭出しは、いつも緊張感が漂う。何キロでるか、どんな炭が出るか、楽しみである反面心配である。

いよいよ、圓光、武内さんの手で窯の取り出し口を開けた。焼き上がりを見ると灰になり易い焚口近くは灰になっていたものの炭が窯内に顔をのぞかせた。



炭を取り出して、たたくと、キーン、キーンと金属音のする硬くて、火持ちの良い良質の炭であった。

作業は合羽を着てマスク付け完全防備で圓光さんが窯に入り一本一本丁寧に窯の口に出し、他の物が選別する小屋のスペースに交代で運び出した。



小屋は風通しが悪く、灰や炭粉塵が立ちこみ息も詰まる状況。マスクをしていても鼻の周りが真っ黒になって作業を進めた。

炭焼きは、額に汗する仕事で「きつい、きたない、きけん」三 K 職場である。中腰作業で腰が痛くなる中、明日（12 月 23 日）開催する八千代町里山保全祭りの参加者に毎年炭を提供し好評を得ている。その喜ばれる笑顔を思い浮かべて行なった。

炭出しは 12 時には終え、真っ黒になった姿の
ままで集合写真を撮って解散した。
皆様お疲れさまでした。

(報告者：櫻井充弘)



3. 第245回現場セミナー 八千代町里山保全祭 (12/23：日・祝) 安芸高田市八千代町土師

12 月 23 日（祝日：天皇誕生日）に、恒例の
八千代町里山保全祭が八千代町湖畔祭り実行委
員会（会長：小又智）により開催されました。

当日は降雨の心配がありましたが辛うじて大
雨にならず、53 人の参加者がありました。小又
会長の開会あいさつ、来賓の浜田一義市長、福
田淳広島県林業振興部長、山本優市会議員のお
祝いの言葉も頂きました。新年を迎える縁起物
の 4 種、正月飾り作り 10 人、しめ縄作り 12

人、門松作り 7 人、鏡餅（胃の中に入れてしま
った??）参加者それぞれの思いと力量で製作
に打ち込んでいました。

正月飾りは、大下弘子先生の指導の下、竹の
筒（内径 13 cm・長さ 40 cm）に松、ナンテン、
センリョウなどを自分のバランス感・審美眼を
発揮しながら、何度も試行錯誤を繰り返して飾
り付けていました。





ご報告



しめ縄作りは、老練の木下豊・大矢国市・川上先生の指導の下、参加者全員が悪戦苦闘していました。まず、縄を縄（な）うことが大変難しく、もち米の藁を数本扱（よ）って（2本）、この2本を縄うのに10分～20分もかかり、それでも縄うことができない者は、とうとう先生の「匠の技」の助けを借りて作っていました。縄ったものを3つの輪にして、稲穂、ウラジロ、ユズリハを付け最後にダイダイを中心に飾り出来上がりです。先生の力を借りたとは言え皆さんの顔に満足感が溢れていました。



ご報告

門松作りは、竹の収集に苦労したそうです。正月飾り用の竹と併せて数十本の真っ直ぐなものが必要で、前日まで収集に奔走したとのことでした。門松作りは、例年のように太田さん、中元さんが丸鋸を使い斜め切りに腕を奮っていました。3本1組にバランス良くセットし出来上がりです。



恒例の餅つきは、地元女性会によりもち米を蒸して頂き、搗（つ）き手は山本さんを中心に、若者たちも力いっぱい杵を振り上げて、3臼も搗きました。

昼食時には、女性会が心込めたいつもの豚汁と一緒に美味しく頂きました。

猪(亥)年が最良の一年でありますように！！

（報告者：畝本暢宏）



<事務局からのお知らせ>

●次の方から

5,000 円（行正高成） 7,279 円（千里の森プロジェクト）